

タイ短期留学プログラム（引率あり型）



プログラム概要

インドシナ半島中央部に位置し、ミャンマー、マレーシア、カンボジア、ラオスと国境を接しているタイ。社会経済の発展が著しく、その首都バンコクは、高層ビルが立ち並び、高架鉄道、地下鉄などの公共交通機関も発達し、東京をものぐ様相です。観光立国としての「LGBTQ+フレンドリー／ツーリズム」の提唱など、性別はもちろん国籍や肌の色といった違いにかかわらず、すべての人を受け入れる土壌があります。このタイで、政治経済学部と学部間協定を締結している諸大学との交流を通じ、東南アジア等、アジアで活躍できる「グローバル人材」の育成を目指すプログラムです。具体的には、シーナカリンウィロート大学、タマサート大学、チュロンコン大学のキャンパスを訪問し、タイの政治・経済・社会・文化や国際社会との関係などをテーマとする特別講義を英語で受講する他、現地学生との英語による交流活動に参加します。日本・タイ政府関連施設、国際機関等を訪問するほか、史跡等の見学も行います。少人数のグループに分かれ、プログラム期間中にそれぞれのテーマにもとづいて共同研究を行い、「Final Presentation」として英語による発表を行います。帰国後、各自が研究を掘り下げて最終レポートにまとめます。

留学前交流イベント
春学期にタイの協定校の学生を含む留学生が来日し交流する機会がありますので、事前に異文化理解を深めることができます。The Supporters（政治経済学部の国際交流学生委員会）から Oh-o! Meiji を通じて政治経済学部生の皆さんへ案内が届きます。ふるってご参加下さい。
*各イベントの日時は変更になる場合があります。詳細は The Supporters から届く案内を参照してください。
■ウェルカムパーティー：6月29日（月）お昼頃 @駿河台キャンパス
■合宿（山中セミナーハウス）：7月4日（土）～7月5日（日）1泊2日
■フェアウェルパーティー：7月10日（金）お昼頃 @駿河台キャンパス
<参考>プログラム期間：2026年6月29日（月）～7月10日（金）

渡航期間 **8月4日（火）～8月19日（水）**

学習科目
タイの歴史・社会・政治・経済・地理・文化、タイと近隣諸国との関係、ASEAN 関係 他
講義タイトル（2026年度予定）： Thai Language & Culture、Thai Economy、Thailand Sustainable Tourism Industry、Thailand Food Security、Thai Politics など

語学要件
【TOEIC（IPテスト含む）550点、TOEFL-iBT 61点、IELTS 5.0、TOEFL ITP500点】以上
※上記の試験の点数を満たしていない場合、英検2級でも応募可能
※英語能力試験の有効期限は、渡航時点で取得から2年以内のものであること。
※タイ語能力は問いません

費用
36-42万円程度見込み（参考：授業料+宿泊代+航空券代+コーディネーター料 2025年度実績）
※協定校の都合により内容が変更となる場合があります。
※政治経済学部生のみ、学部からの助成金に申請することが可能です。他学部生は、対象外です。
※**参加人数、為替レート、燃油サーチャージなどにより、費用の変動の可能性**があります。
※最終的な支払い金額は、参加人数が決定次第、お知らせします。（別途、大学指定の海外旅行保険料、自宅から空港までの交通費、現地での食費、現地交通費、施設等入場料、諸雑費がかかります。）

滞在先 TAI PAN HOTEL（2名1部屋）

応募に当たって 応募方法や**キャンセル規定**を含め、**共通募集要項**を熟読の上、応募するようにしてください。

◆参加者の声◆

- ・現地学生と夜ご飯に行ったり、タイの名所を案内してもらった。交流は帰国した今も続いており、こちらからも日本の魅力を発信していきたいと思っている。
- ・JETRO 訪問では、JETRO の企業方針や、どのようなプロジェクトを行っているのか知ることができ良い機会でした。明治大学のOBの方であり、タイプログラムに参加した大先輩であったので大学時代のお話やアドバイスを聞くことができ貴重なお話でした。
- ・タイ留学は、授業を受けることだけでなく、現地生、教員、他の日本人学生との日本では得られない機会が得られることが大きなメリットです。
- ・Meiji NOW 寄稿記事「タイで政治経済・文化を学び、さまざまな人と交流！引率ありのグループ留学で初めてでも安心」



タイの学生と英語を使って交流。コミュニケーション能力が格段に向上しました

海外での中長期留学を見据えて、まずは海外での学生生活を体験してみたいと考え、短期留学に参加しました。留学先のタイは英語が第一言語ではないため、英語を日常的に話せるのかを懸念していましたが、首都のバンコクはほとんどの場面で英語が通じる環境で、英語でのコミュニケーションに困ることはありませんでした。タイの学生は皆とても優しく接してくれて、お互いに英語が第一言語でない中でも懸命にお互いの言いたいことを伝え合い、楽しく交流することができました。放課後に観光地やナイトマーケットへ一緒に出かけたことは、とても良い思い出です。この留学で培った英語力やコミュニケーション能力は、私が所属している政治経済学部の国際交流学生委員会 The Supporters での活動や、ACE の授業などで活かしていると感じます。また、当初の目的であった中長期留学への参加意欲もさらに高まりました。（経済学科1年）*プログラム参加当時の学年です

